

廃棄物処理施設で火災が発生してしまう理由とは？

営業部 伊奈

いつもお世話になっております。リサイクルクリーンの伊奈です。今回は昨今よく耳にします廃棄物処理施設で火災が起こってしまっている理由について触れていこうと思います。

まず初めに産業廃棄物処理施設での火災の事故は、実は全体的な事故件数から見ると多くはありません。ですが処理施設“内”で起こった事故について着目すると火災は全体の約三割を占める事故となっています。(一般社団法人 廃棄物処理施設技術管理協会産業廃棄物事故事例調査報告書資料より引用)

次に処理施設で火災が起こる原因についてですが、様々な原因が挙げられます。まず不特定多数の廃棄物が処理施設に集められることで可燃性、発火性のある廃棄物が混ざり合い化学反応を起こし引火、爆発、火災を引き起こす事も有ります。

中でも火災発生事例が多いものとして特に注意しなければならないものがリチウムイオン電池の混入になります。近年ではモバイルバッテリーや小型機器にも非常に多く使用されているリチウムイオン電池ですが、個人の用途で使用する以外にも医療用モニターやガスメーター等産業廃棄物として搬出される事も多く、リチウムイオン電池は外部の衝撃で膨張や爆発を起こしそのまま他の廃棄物へ引火してしまうケースがかなり多く環境省からも厳重に注意喚起がされています。

弊社リサイクルクリーンでは、このような火災事故が起こらないように、どんな廃棄物でも搬出前にしっかりと説明をさせて頂き、正しい処理方法をお伝えします。

リチウムイオン電池やその他廃棄物でお困りなことがございましたらご連絡下さい。